



世界農業遺産 静岡の茶草場農法 茶文字の里

東山茶歴史探訪マップ



日本一の健康長寿町「お茶の町」掛川

掛川市は人口10万人以上の市区町村の中で、がんによる死亡率が日本一低く、高齢者の医療費も全国平均と比べて20パーセント以上も低い、驚きの町。それは、市民が掛川産の「深蒸し茶」を飲んでいるからだと言われています。

東山は、いち早くこの製法を取り入れた掛川「深蒸し茶」のパイオニアとして深い歴史があります。



●車 / 新東名島田金谷ICから国道473号経由、国道1号バイパス大代IC～日坂IC経由で25分
●電車・バス / JR掛川駅から掛川バスサービス東山線で35分、終点東山バス下車、東山いっぷく処まで徒歩2分

東山の四季



秋祭り



山頂での月見会



山頂の初日の出



カケガワフキバッタ



さざゆり

茶草場農法がはぐくむ東山の自然

世界農業遺産 静岡の茶草葉農法

東山地区では、茶農家によって維持管理された茶畑周辺の半自然草地のことを古くから「茶草場」と呼んでいます。かつては日本各地で見られたこのような草地は減少し、そこをすみかとしていた動植物や昆虫のなかには絶滅に瀕している種類もあります。ここ東山地区では、150年以上も前から、良質茶の栽培を目的に、茶農家が草を刈り、細かく刻んで茶畑の畝（うね）に敷くという「茶草場」農法が継承されています。長年、茶畑のために山の草を刈ることで、日当たりが良くなり、絶滅危惧種の昆虫（カケガワフキバッタ）や植物を育てる自然環境が守られてきました。国内有数の「秋の七草」が一か所で揃う地としても有名です。



茶摘み風景

（秋の七草：女郎花、萩、薄、桔梗、撫子、葛、藤袴）
このお茶づくりにこだわる思いと努力が、全国から失われつつある里山の草地の生物多様性の維持に役立っていることが高く評価され、2013年に、「静岡の茶草葉農法」として、世界農業遺産に認定されました。

特別ツアー（団体向けに開催。日程、料金等ご相談ください）

- 闘茶体験会（様々な種類のお茶を飲み分ける競技「闘茶会」を楽しく体験。）
- 深蒸し茶の美味しい淹れ方教室 / お茶会（お茶と菓子の接待）
- 茶草場ガイドツアー（茶草場農法を解説しながら茶園巡り）
- 茶草場農法体験
- 手揉み茶体験
- 茶摘み体験
- 茶工場見学

お問合せ
茶文字の里 東山
 0537-27-2266
 www.higashiyamacha.jp
 メール ippukutokoro@gmail.com

東山の歴史こぼれ話

東山小学校に「お茶休日」があった

明治から昭和中期まで、茶摘みの期間二週間は学校がお休みだった。子供たちは茶畑を遊び場にして、茶摘みを手伝っては、お小遣いをもらうのを楽しみにしていたという。



当時のお茶摘みの様子

五郎左工門の石

一六〇〇年代、粟ヶ岳の参拝者のための登山道一町（約一〇九メートル）ごとに、道標の石が置かれた。そのほとんどが高天神城の落人、五郎左工門の名が刻まれていたという。五郎左工門の槍と種子島伝来と伝えられる火縄銃一挺は、現在も子孫（茶農家）の家に保管されている。



火縄銃 ▲九町とある

若宮神社と松葉城との関係

倉真の松葉城城主、河合成信の家中に落ち九郎左衛門久吉という家臣がいた。彼の裏切りにより城が落城し城主は切腹（二四九六年）末裔が、祖先の罪を知り、城主の霊を弔うため、若宮神社に祠を建てた。その子孫は、現在、茶農家であり、往時はさすがに武家風の屋敷であったという。

東山茶の歴史とつながる地

仙台 東山が、美味しいお茶を追及して、深蒸し茶を始めた時、出会ったのが仙台のお茶屋「井ヶ田」だった。東山のお茶を飲んだ社長が、「すべて買つて」と、折り紙を付けた。まだ深蒸し茶が評価されていない時代であったが、彼の先見の高さは見事で、東山のお茶の美味しさに人々が魅せられ、人気商品となった。東山の深蒸し茶が世に出るきっかけになったのが仙台であった。井ヶ田社長が剛毛した「謝茶」の石碑は、榮西禅師像と共に建立され、山頂から茶畑を見守っている。
チリ国 明治期、茶畑の肥料とし、チリ硝石が活用されていた。「チリ硝石施用 第一回製茶品評会褒賞」の表彰状が、当時、東山の茶農家の指導者を務めていた家に残されている。九州でも指導していた記録があり、広く製造技術を伝えていたことがうかがえる。



歴史ある東山のお茶が購入できる場所

東山は日本一の称号「農林水産大臣賞」を複数回受賞。その高い品質は多くの方から認められています

東山いっぷく処 静岡県掛川市東山1173-2
 TEL (0537) 27-2266
 休日：水曜日（祝日の場合は翌日） www.higashiyamacha.jp
 FAX (0537) 27-2267



東山 最古の家

慶長5年(1600)ごろ、掛川市原泉より吉左工門という者が、金の鞍を付けた名馬一頭を持参し、この地に安住、以降、その一帯を治めたという。吉左工門の石碑は山王神社の境内に祭られています。もちろん、現代の当主は茶農家です。



吉左工門の石碑

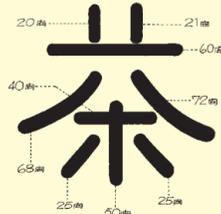


1 東山いっぷく処

生粋東山茶をいただくことができます。
茶文字まんじゅう、東山のお茶、在来茶園のお茶もお土産に購入できます。
ここからスタートしましょう。「いっぷく処で、ちょっといっぷく」

2 日本一の「茶」の文字

新幹線の車窓や空港から見える大きな「茶」の文字は東山のシンボル。近くで見ると、壮大さがわかります。昭和7年、最初に植えられたときは松の木でしたが、現在はヒノキとなりました。縦横約130mです。



3 「粟(あわ)ヶ岳」

海路を行く船の道しるべともなり、霊山として信仰を仰いだ粟ヶ岳。明応年間(1492~1501)、山頂の井戸(無間の井戸)は、潮の干満によって、高く湧き出て、龍が立ち上る白雲のように見えたので、「泡ガ巖」と人々が呼ぶようになったと言う縁起の良い場所。

この泡が固まって、「無間の鐘」となり、竜宮から湧き出た鐘として、「日本三鐘」の1つに指定され、名をはせました。

山頂の阿波々(あわわ)神社は、生産の神。子授・安産成就・縁結びに御利益あります。桜の刺しゅう入りお守りやフクロウのお守りが好評。



磐座

4 パワーの森

山頂の原生林(阿波々の森)は、静岡県の天然記念物に指定されています。森林の中で大きく深呼吸し、心身をリフレッシュ。

5 磐座(いわくら)

古代の祭祀跡、神様が降臨されるという巨岩群が存在する磐座は、東山のパワースポットです。巨石の前で手を広げ、神聖な気をいっぱい受けてください。



▲栄西禅師像

6 栄西禅師像

山頂に、日本にはじめて中国の禅と茶の効能を伝え広めた栄西禅師(1141~1215)の坐像があります。この前で一緒に心静かに坐り、山頂からの景色を楽しむことができます。茶畑や静岡空港も見渡せます。昭和までこの台座の下の岩から霧が噴き出していたそうです。東山の有志により昭和36年に建立されました。

東山歴史名所マップ

10か所回ると、お茶の御利益があるかもしれません!



東山茶の発祥の地

東山は、茶の湯の文化が生まれた室町時代に開村され、江戸時代にも茶が栽培されていましたが、山全体に茶畑の開墾がはじまったのは明治になってからです。はじめて東山の開墾茶の栽培が始まった場所は左地図を参照下さい。当時の若者たちが、茶は前途有望と開墾を始めます。昔は「黒茶」(釜炒り製法)でしたが、明治から「青茶」(蒸し製)となり、昭和中期から「深蒸し茶」の里に。



▲在来茶園

在来種の茶園

昭和30年代以降、生産性、品質共に優れた「やぶきた」という品種がほとんどとなりましたが、「先人の思いを今に」というスローガンで昔の在来茶を復刻させた「在来茶園」があります。



▲無間の井戸

7 「無間(むげん)の鐘」

「無間の鐘」は、「遠州七不思議」の1つです。その昔、鐘をつくお願い事がなんでもかなうが、地獄に落ちると言われており、それを案じて井戸に埋められたと伝わっています。山頂にその井戸の跡を見ることができます。

8 井口地藏尊

250年ほど前、3か月半という長い日照り続きで村人が困っていたとき、このお地藏様に雨乞いをしたところ、不思議に雨が降り、住民を助けてくれました。つるし鐘は「1度つくど災難を避け、2度つくど病気を避け、3度つくど家が栄える」という伝承があります。

昔は粟ヶ岳山頂の倉真、東山の境に祀られていましたが、地藏様を足で蹴飛ばし、谷川に落としてしまったため、すぐに拾い上げ、明治8年からこの地にお堂を移したということです。



9 観泉寺(長福寺)

「遠江三十三観音霊場」二十二番です。江戸時代まで、長福寺という別寺がありましたが、以降、観泉寺と1つになりました。こちらで観音像を拝み、壮大な茶畑を見渡すことができます。

10 東山いっぷく処 粟ヶ岳山頂店

休店日:月曜日(祝日の場合は翌日)
静岡県掛川市東山1050-1
TEL.FAX 0537-27-0845
(カレー、うどん、そばなどあり)

